



「CS」は、コミュニティ・スクールの略称です。

# 若基小CSだより

第1号 令和3年6月29日

文責 校長 本村 一浩

## ■ 「地域とともにある学校」を目指して

今年度から、基山町立3校は、「コミュニティ・スクール（以下、CSと記します。）」となりました。お隣の鳥栖市や佐賀県内の各校にて、すでにCSとして活動している学校が多くありますので、御存知の方も多いのではと拝察します。CSとは、「学校運営協議会制度」のことで、学校が地域住民や保護者と教育目標を共有し、組織的・継続的な連携を可能とする、「地域とともにある学校」への変換を図るための組織です（文部科学省ホームページから引用）。平成16年から法制化されました。裏面に、CSの仕組みについて文部科学省が作成した図を掲載しています。

本校にも、地域を代表する方や保護者代表（PTA会長様）の方々にお声かけして、「学校運営協議会」を立ち上げました（写真は、第1回会合の様子）。従来から「学校評議員制度」があり、地域・保護者代表の皆様から学校経営に対してご意見をいただいておりますが、この「学校運営協議会制度」は、そこから一步進めて、一定の権限をもって学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の組織に進化しました。その「一定の権限」とは……。

コミュニティ・スクールの主な3つの権限（文部科学省ホームページから引用）

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第47条の5】

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができる。
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる。

この権限に基づいて、意見を述べるだけではなく、CSの先進地域に見られる活動例では…、

- ・ 児童生徒の挨拶ができていないから、保護者・地域団体に呼びかけて挨拶運動をしよう。
- ・ 学校教育目標にある「心の教育」を強くするために、地域のサークルに呼びかけて絵本の読み聞かせ活動をしよう。
- ・ 同じく、情操教育の一環として、JA等の団体に助力を仰いで栽培活動を行おう。
- ・ 先生方の手が回らないようだから、ミシンボランティア、調理実習ボランティア等を募って、授業を支援しよう。

などの活動が見られます。平たい言葉で言うと、「学校の応援団」としてご活動いただき、と言えるかと思います。

こう書くと、学校ばかりが恩恵を受け取っているように感じますが、先進地域・先進校のCS委員からは、「学校の教育活動に参画することで、子供たちから元気をも



5月11日（火）第1回学校運営協議会の様子

らった。」「CS の活動が自分の生きがいとなっている。」などの声が聞かれています。地域住民・保護者の方々の教育力を学校に活用していく。児童・教職員ができるだけ地域行事に向く、地域住民・保護者の方に充実感を味わっていただく。そんなウィンウィンの互恵性のある関係を目指し、「開かれた学校」から一歩進んで、「地域とともにある学校」に向けて教育活動を実践していきます。

■ 本校学校運営協議会委員の紹介（五十音順、敬称略）

氏名	役職等
小山 明	【本会会長】 13区区長
久保山紀陽子	本校指導教諭
篠田 桂子	本校教頭
平川 恵	こどもの居場所づくりコーディネーター
本村 一浩	本校校長
森永 和美	【本会副会長】 民生委員、元小学校教員
山内 ともこ	基山町教育委員会指導主事
山里 孝子	民生委員
龍頭 英理子	本校PTA会長

5/11 の第1回学校運営協議会では、各委員様から見た、地域での児童の様子、小規模特認校制度のこと、若基小校区に見られる児童数減少のことなどについて意見が交わされました。

学校運営協議会で話し合ったことや、取り組む活動等については、この「若基小CSだより」でお伝えしていきます。

